タイトル：2021 年度 教育セミナー（第 17 回）
日時：2021 年 9 月 16 日（木）～19 日（日）
オンライン開催

「現代欧米における教会からモスクへの転用―空間的アプローチの可能性」
和田知之（東京大学大学院人文社会系研究科）

私の参加した 2021 年度の中東☆イスラーム教育セミナーは、9 月 16 日から 19 日までの計 4 日間の日程で開催されました。1 日ごとに 2～3 名の参加者が自身の研究発表を行い、その途中や発表後に講師の方々が 1～2 名講義して下さるという形式で行われました。

本セミナーの素晴らしかった点としては、やはりなんといっても講師や参加者の研究対象地域や時代そしてディシプリンの多様性が最初に挙げられるのではないでしょうか。歴史学等の異なるディシプリンや方法論を採用している方々のご発表は、史料の選定や批判的分析も含めて私自身学ばせて頂く点が数多くありました。本セミナーへの参加は中東もしくはイスラームに関連する人文社会科学研究を志している大学院生であれば応募資格を有するため、実際の参加者の中にも中東地域のみならず東南アジア、中央アジアにおける事象を研究対象としていらっしゃる方が一定の割合存在し、結果として自分が十分に把握していない地域についての知見も更に深めることができました。そもそも「イスラーム学会」といった学会が日本では存在していないということなので、我々の様に研究者を志望している院生にとって今回のセミナーは非常に貴重な機会として位置づけられうるものでありました。私自身としても現在所属研究室内にはイスラーム関連の研究をしている院生や先生がいらっしゃらないため、本セミナーを通してイスラームというつながりでの人脈を得ることができたのは大きな成果であったように思われます。強いて注文をつけるとするならば、講師・研究者の方々による講義の内訳に関して、現代イスラーム研究を行っている人類学や社会学の方の割合を今後はもう少し多くして頂ければなおよろしいかと存じます。

その他の点に関しても、研究発表では 1 人あたり発表 40 分、質疑応答が 30 分で計 70 分とたっぷり時間を確保して下さったのは有難かったです。ただ、今年度は例年に比べて参加者も多く、またポスター発表を行う方も多くいらっしゃいました。その方々の場合は発表時間も合わせて 1 人あたり計 20 分となっており、傍目から見て聴講者側が十分に発表内容を理解したり質疑応答するには時間が不十分であったように思われました。いっそ研究発表は通常の形式のみとして、応募の時点で参加者の数をしぼるか、もしくは複数日程で行うのがより好ましいのかもしれません。（もちろん複数日程で開催する場合は AA 研の講師の方やその他関係者の方のご負担が増えることは重々承知しておりますが…）

今年もオンライン開催ということで、参加者や講師の方々との交流や懇親会はどうなるのか参加前はやや不安な気持ちでおりました。実際には、開催期間中毎晩 zoom を開いたままにして院生参加者同士で歓談する機会を与えて頂き、おかげで対面時とさほど変わらない程十分に親睦を深めることができました。（ただ、初日の懇親会におけるルームごとのトークセッションは自己紹介の時間も含まれるので 1 回あたりの時間をもう少し多くとった方が望ましいかもしれません。）

以上長々と述べてきましたが、総合的には非常に満足度の高いプログラムであったといえるのではないでしょうか。来年以降も、日程の都合がつくようであれば（博士課程対象の研究セミナーも含めて）是非引き続き参加を検討したいと考えております。講師・研究者の先生方、そして参加者の皆様、セミナー中は大変お世話になりました。今後もどうぞよろしくお願いします。